

近年の管理執行上問題となった事項など
(指定病院等における不在者投票事務関連)

※ 以下のような事項のほかトラブルが生じた場合は速やかに選管事務局に連絡してください。

- 施設内において、選挙人に投票用紙を交付する際、誤って 2 枚交付した。
(考え得る対策等)
→ 選挙人に交付するたびに確認を行い、毎回確実に 1 枚ずつ交付してください。また、交付する際は、選管から交付されたときのかたちを崩さない(投票用紙・内封筒・外封筒の一式をバラバラにしない)ようにしてください。
- 施設において不在者投票実施後、選管への不在者投票用紙の発送を施設職員が失念した。
(考え得る対策等)
→ チェックリストを作成したり、職員同士の引継ぎを確実に行うなどして複数職員での確認を行ってください。
- 施設内での不在者投票において、投票用紙を 1 枚紛失した。
(考え得る対策等)
→ 選管から交付された投票用紙等は、不在者投票実施までキャビネット等で施設の上、保管してください。
- 施設職員が小選挙区選挙と比例代表選挙の投票用紙・内封筒・外封筒を取り違え選挙人に説明し、交付し、投票させた。
(考え得る対策等)
→ 選挙種別ごとの投票用紙の色を正しく認識し、選挙人に交付するたびに毎回確認を行ってください。
- 選挙人 1 人から比例代表選挙の内封筒に入っている投票用紙が小選挙区選挙の投票用紙である旨の申し出があったため、不在者投票事務従事者が確認せずに別の選挙人の比例代表選挙の投票用紙を交付した。
(考え得る対策等)
→ それぞれの選挙人に交付された投票用紙等を別の選挙人が使用することは原則として認められません。選挙人同士の名簿登録地が同じ市町村であっても認められません。

- 選挙人1人から、小選挙区選挙と比例代表選挙の投票用紙両方を、比例代表選挙の内封筒・外封筒に入れてしまったのち、小選挙区選挙の投票用紙がない旨の申し出があったため、不在者投票を棄権した別の選挙人の比例代表選挙の投票用紙を交付した。

(考え得る対策等)

- それぞれの選挙人に交付された投票用紙等を別の選挙人が使用することは原則として認められません。

- 施設において不在者投票予定であった選挙人が退院して期日前投票所に来たが、交付済みの不在者投票用の投票用紙等が選管に返却されていなかったため、その日は投票できなかった。

(考え得る対策等)

- 不在者投票のために投票用紙等の交付を受けている選挙人は、その投票用紙等を選管に返却しない限り投票所で投票することができません（同一選挙人への投票用紙の二重交付はできないため。）。

施設において選管から投票用紙等を受領したのちに、退院（一時退院などの外出を含む。）する選挙人がいる場合には、この旨をよく説明してください。

- 外封筒に署名される投票立会人氏名を、投票立会人でない施設職員が代筆した。

(考え得る対策等)

- 外封筒の投票立会人氏名は本人による自筆署名が必要です。

投票立会人が投票記載場所において、各選挙人の不在者投票終了後（外封筒の封を閉じ、選挙人氏名が署名された直後）速やかにその場で署名してください（全選挙人の不在者投票終了後にまとめて署名）。

- 代理投票を行うに当たり、代理投票の補助者を不在者投票管理者や投票立会人が務めた。

(考え得る対策等)

- 代理投票の補助者2名は、不在者投票管理者が投票事務従事者から選任しなければなりません。不在者投票管理者や投票立会人が務めた場合、その投票は無効の扱いとなります。

代理投票を行う際は、投票記載場所に少なくとも4名（投票管理者（又はその事務補助者）、投票立会人1名、代理投票の補助者2名）がいることになります。

- 施設において受け付けた不在者投票を本来の選管に送付せずに、都道府県の選管に送付した。

(考え得る対策等)

- 投票用紙の送付先は、選挙人が入所・入院している指定施設の所在地を管轄する市区町村の選挙管理委員会（盛岡市）となりますので、ご注意ください。